

Meiji Seika ファルマ株式会社

報道関係各位

2021年7月21日

ウステキヌマブバイオ後続品「DMB-3115」の ライセンス契約締結に関するお知らせ

Meiji Seika ファルマ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：小林大吉郎、以下 Meiji）と東亜 ST 株式会社（本社：韓国ソウル市、会長兼 CEO：Daesik Eom、以下東亜 ST）はこのたび、共同開発中のバイオ後続品「DMB-3115」（開発コード）についてインタス・ファーマシューティカルズ（本社：インド アーメダバード市、副会長：Binish Chudgar、以下インタス）とライセンス契約を締結しましたので、お知らせします。

本契約に基づき、インタスは日本・韓国および一部のアジア地域を除く世界において、DMB-3115 を独占的に販売する権利を取得します。Meiji および東亜 ST は DMB-3115 の開発・製造を担当し、インタスに DMB-3115 製品を供給します。Meiji および東亜 ST はインタスより調印時の一時金に加え、開発や販売に応じたマイルストーンおよび製品販売に応じたロイヤルティの支払いを受けることになります。

DMB-3115 は、尋常性乾癬、クローン病や潰瘍性大腸炎等の治療に広く用いられる抗体医薬品であるウステキヌマブ（遺伝子組換え）のバイオ後続品として、Meiji および東亜 ST が開発を進め、現在は欧米で臨床第Ⅲ相試験を実施中です。Meiji は、2011年9月に東亜 ST の親会社である東亜ソシオホールディングス株式会社とバイオ後続品に関する戦略的包括提携契約を締結し、共同でバイオ後続品の開発を進めています。

インタスは、インド企業として初めて欧州でバイオ後続品を販売し、バイオ後続品の開発および販売におけるパイオニア企業のひとつです。Meiji は、東亜 ST およびインタスと協力して DMB-3115 を早期に上市し、乾癬や炎症性腸疾患で苦しんでおられる患者様ならびに医療や社会に貢献することを目指します。

以上

【参考】

◆東亜 ST 株式会社について

東亜 ST は韓国で有数の製薬グループである東亜ソシオホールディングス株式会社の新薬開発、医薬品の製造および販売を専門とする製薬企業であり、DPP-4 阻害剤 Evogliptin、PDE5 阻害剤 Udenafil や AChE 阻害剤 Corydaline などの新薬をこれまでに創出しています。製品は、循環器系、消化器系を始め広範な疾病領域にわたり、ジェネリック医薬品、バイオ医薬品、原薬、OTC など高品質の製品を世界 50 ヶ国以上に提供しています。詳細は下記ホームページをご覧ください。

<http://en.donga-st.com>

◆インタス・ファーマシューティカルズについて

インドのアーメダバードに本社を置く医薬品の製造・販売メーカーで、世界 14 ヶ所に製造工場を保有し、全従業員数は 16,000 人を超えます。インタスはジェネリック医薬品やバイオ後続品をインド国内に限らず、北米、ヨーロッパ、中南米をはじめとする世界 85 ヶ国以上で提供するグローバル製薬企業です。詳細は下記ホームページをご覧ください。

<https://www.intaspharma.com/>